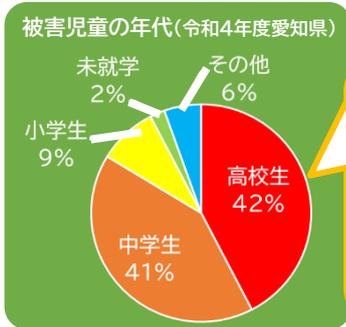
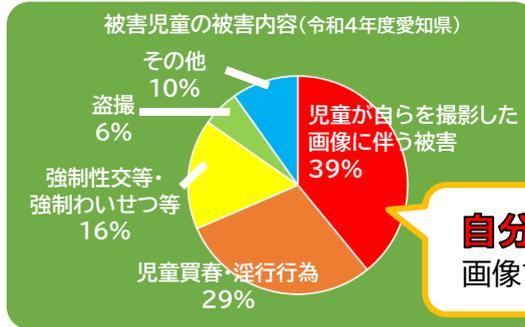


夏休み前に知っておきたいこと

① 中学生に多いSNSでの自撮り画像被害



児童ポルノ
事犯の被害
中学生
で
全体の
83.7%



自分で撮影した
画像で被害にあう

必要以上に**自撮りしない、送らない**

基準は...

町中に貼りだしても
よい写真かどうか

自撮り被害の撲滅アプリ

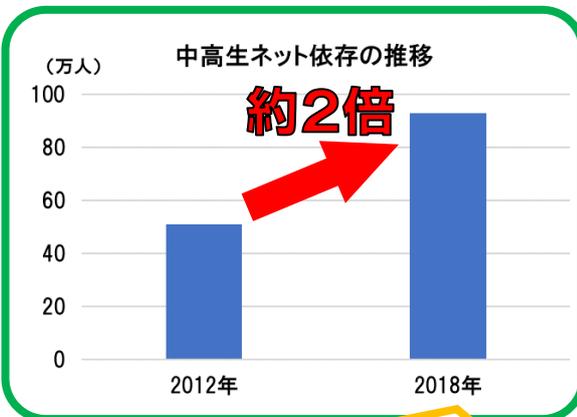
コドマモ

※藤田医科大学の学生が作成(裏面参照)

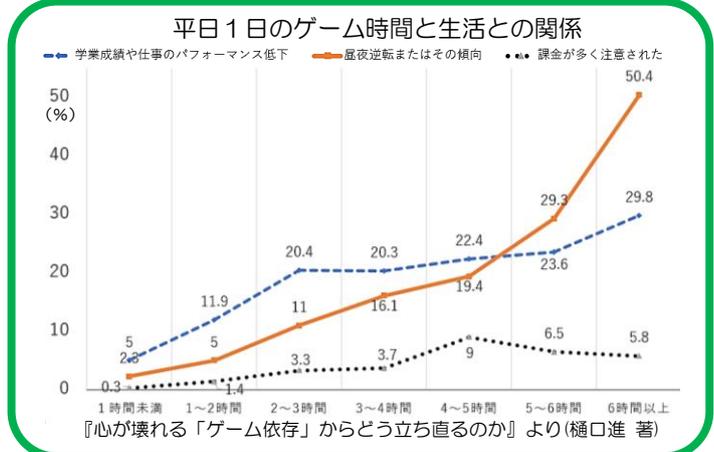


コドマモ

② ネット依存とその影響



うち**9割**は
ゲーム障害とも



ゲーム時間↑ 生活↓

生徒・児童は短期間で重症化 ⇒ 医療機関に支援を求める必要も

依存を防ぐポイント

- ①機器を買う前、使う前にルールを決めるために話し合う。
- ②大人も子供も納得できるルールにする。
- ③デジタル機器の所有権は大人にあるということを明確にしておく。
- ④使用時間を明確にし、適切な時間帯の睡眠を確保する。
- ⑤どんなときに機器を取り上げるのか条件を決めておき、一貫性のある対応をする。



SNS上で子どもが狙われる 児童ポルノ事犯などの深刻な性被害が増加中

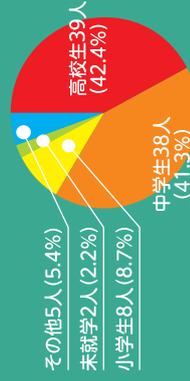
愛知県警
ニュース

○児童ポルノ事犯の被害児童は**中高生で83.7%**※

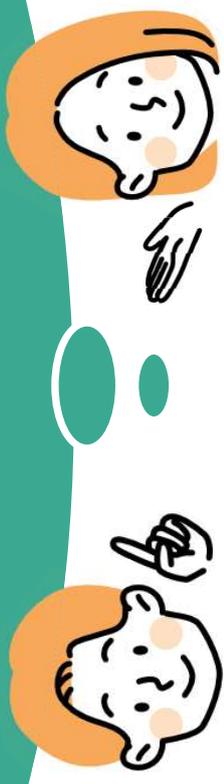
○被害内容は**児童が自撮りした画像に伴う被害が39.1%**※

※令和4年
愛知県警での認知

被害児童の年代 (令和4年)



被害児童の被害内容 (令和4年)



藤田医科大学医療科学部の学生が SNS児童性被害防止アプリを発案。

増加しつつけるSNSでの自撮り画像被害。

10代の4人にひとりが性的な自撮りを他人に送った経験アリというデータもあります。被害や事件は特別にケースではなく、SNSを使う何気ない日常に潜んでいます。

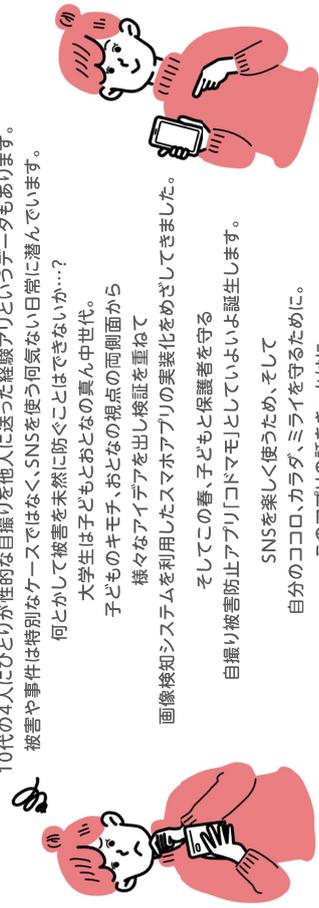
何とかして被害を未然に防ぐことはできないか…?

大学生は子どもとおとなの真ん中世代。子どものキモチ、おとなの視点の側面から様々なアイデアを出し検証を重ねて画像検知システムを利用したスマホアプリの実装化をめざしてきました。

そしてこの春、子どもと保護者を守る「自撮り被害防止アプリ「コードマモ」」としていよいよ誕生します。

SNSを楽しく使うため、そして自分のココロ、カラダ、ミライを守るために。

このアプリの話をきっかけに自撮り被害について親子でお話していただければ嬉しいです。



「子どもを守りたい、という強い思いから 産官学の連携で始まったプロジェクトです

児童による性的な自撮り被害が増える中、愛知県警察が2021年秋に被害防止策について起業家を育成するプロジェクト団体「Tongali」に相談。

社会課題解決を講義でも扱っていた藤田医科大学が名乗りをあげ、計画が始まりました。



大学生が子どもの自撮り被害撲滅のために立ち上がった!
アルバムに残せない自撮りは送らないこと。
心掛けたのは子どもと保護者の気持ちに寄り添う開発

子どもを叱ると、相談できなくなっちゃう…
わいせつ画像の検知機能の精度を上げないと!
子どものプライバシーと心身を守るシステムにしよう!

子どもを被害者にも加害者にもさせない!

「送る」を止めれば「未来」は守れる

コードマモ

子どものわいせつな自撮りをAIで検知

- コードマモのPOINT!
1. プライバシー保護
 2. オリジナルの画像認識AI
 3. いろんなカメラアプリにも対応



コードマモの仕組み

わいせつな自撮りが撮影されたら… AIが自動感知
子どもに削除を推奨
親のスマホにもすぐに通知

コードマモに期待される効果

犯罪を減らす抑止力に
親子の対話を促進する仕組み
子どもが加害者になることを予防

学校配布の学習用タブレット端末にインストールすることで、
学校内の性的な自撮り、
盗撮を防ぐことができます